

---

# **大人のための異文童話集2 ガラスの靴**

天野久遠

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

大人のための異文童話集2 ガラスの靴

### 【NZコード】

NZ9540

### 【作者名】

天野久遠

### 【あらすじ】

遠く離れた恋しき一人のほんのひとときのお話です。シンデレラが残したガラスの靴とは、形あるものだけとは限らないのかも…。

寒い冬の出来事でした。

今日の夜は一人にとつて束の間の時間、それはただ一度だけとなる、  
舞踏会ならぬコンサート。

約束の場所へ着くと、まだ少し雪が舞っていたけれど、すぐに雪降  
らす雲は旅立った。

その後に見えた夜空には、澄んだ紺青に、小さく煌めく星々が姿を  
見せていた。

コンサートの場所。

お互によく知らなくて、冷えてしまった互いの手を結んで少し歩  
き探し回る。

寒空もこゝにして歩けば、また、風情あるものと言えようか。

変わった形の交番で訪ねれば、そのすぐ側がコンサートの会場。  
そんな少しづ間の抜けた世間知らずな一人がまたいい。

ディナーを取りながらの小さなコンサート。

予約の際に遠方から参加と知つての気遣いで、演奏に近い席をリザ  
ーブしてくれた優しさが温かい。

若い者はそれほどいる様子も無く、昔ながらのファン達で静かに盛  
り上がる。

テーブルの下で結んだ手と手も暖かい。

その場を離れるとまた、別々になる一人。

その歌のように、一緒に朝を迎えることなど考えられない一人。

許されるこの時間の中にだけ、互いに結んだ手の温かさを記憶に留めていく。

これについて特別な会話などもなく、心にしみてくる温かさを感じつつ歌を聴く。

「コンサートと同じよひだし、食事も終われば限りある時間もやつてく る。

ともに過じた時間、その名残惜さを抱きつづき帰途に付く。

泊まるホテルには私だけ。

くちびるに残った柔らかさが、寝ぼらこ気持ちに拍車をかけた。

馴染みのよつで馴染みでない…彼地のホテルで外に見える灯りが揺らいでいた。

指で触れては確かめる。

この唇の感覚はあなたが残したガラスの靴。

あなたを送った後、タクシーの中で運転手と交わした会話が、妙に

心地よく蘇る。

「素敵なお嬢さんですね。」

その言葉が私には、今日、一番の喜びだったよつこも思える。

寒さの中で、いつまでも手を振るあなた。

バックミラーに映っていたそんなあなたはも、もう居ない。

ほんのひとときと離れ、今までに見たことのないあなたを知った胸の高鳴りなのか。

その顔に、その姿に、想い醉いしれもう一度、ガラスの靴に触れてみる。

脳裏を彷徨うのは、コンサートで聴いたあの歌のフレーズ。

ある寒い冬の日のお話。

それは魔法使いがくれた特別な時間と、シンデレラが残したガラスの靴のお話。

(後書き)

BGMには下田逸郎の“夢のまんなか”でも聞いて欲しいですね。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9540/>

---

大人ための異文童話集2 ガラスの靴

2010年10月15日01時09分発行